

I 医療機能のあり方について

今後の医療機能の検討について

■ 小児科・整形外科関係

「専門委員会」報告書(7月28日とりまとめ予定)を
第11回会議で報告

■ 小児科・精神科関係(今回会議で検討)

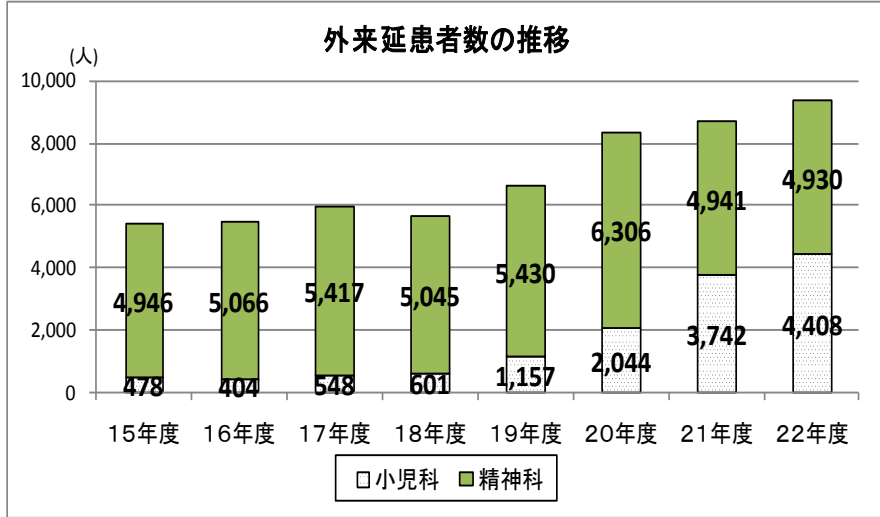
(1) 医師確保等について

(2) 療育福祉センター発達支援部について

(1) 医師確保等について



療育福祉センター外来診療の状況



【小児科の外来延患者数(リハビリ再診含む)】

| 疾患名 | 平成22年度 | | 計 |
|-----------------|--------|-----|------|
| | 児 | 小児科 | |
| 脳性麻痺 | 345 | 20 | 365 |
| 脳性運動障害 | 54 | | 54 |
| 運動発達遅滞 | 298 | | 298 |
| 精神運動発達遅滞 | 258 | | 258 |
| 染色体異常 | 468 | | 468 |
| てんかん | 76 | 50 | 126 |
| 中枢神経感染症後遺症 | 29 | | 29 |
| 脳・脊髄・頭蓋の形成異常 | 199 | | 199 |
| 代謝・変性・脱髄疾患 | 1 | | 1 |
| 筋疾患 | 3 | | 3 |
| 精神遅滞 | 337 | | 337 |
| 言語発達遅滞 | 336 | | 336 |
| 自閉症スペクトラム(ASD) | 952 | | 952 |
| 注意欠陥多動性障害(ADHD) | 260 | | 260 |
| 学習障害(LD) | 19 | | 19 |
| ASD+ADHDなどの重複 | 94 | | 94 |
| 発達障害の疑いなど | 348 | | 348 |
| その他の神経疾患 | 85 | | 85 |
| その他 | 100 | 27 | 127 |
| その他後天性障害 | 49 | | 49 |
| 小計 | 4311 | 97 | 4408 |

【H22年度 小児科外来の新患者数】

| 疾患名 | 実人数 |
|-----------------|-----|
| 脳性麻痺 | 6 |
| 脳性運動障害 | 1 |
| 運動発達遅滞 | 6 |
| 染色体異常 | 5 |
| てんかん | 1 |
| 脳・脊髄・頭蓋の形成異常 | 1 |
| 精神遅滞 | 13 |
| 言語発達遅滞 | 30 |
| 自閉症スペクトラム(ASD) | 63 |
| 注意欠陥多動性障害(ADHD) | 3 |
| ASD+ADHDなどの重複 | 2 |
| 発達障害の疑いなど | 67 |
| その他後天性障害 | 1 |
| その他 | 11 |
| 合計 | 210 |

【精神科の外来延患者数(リハビリ再診含む)】

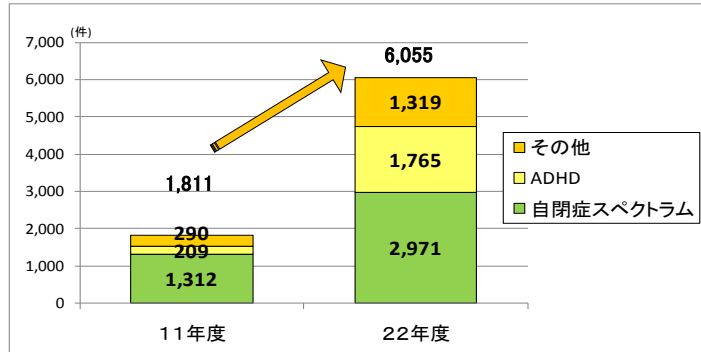
| 疾患名 | 平成22年度 | | 計 |
|-----------------|--------|-----|-------|
| | 児 | 精神科 | |
| 精神遅滞(MR) | 238 | 95 | 333 |
| 自閉症スペクトラム(ASD) | 1,621 | 398 | 2,019 |
| 注意欠陥多動性障害(ADHD) | 1,461 | 44 | 1,505 |
| 学習障害(LD) | 86 | 1 | 87 |
| ASD+ADHDなどの重複 | 267 | 3 | 270 |
| 発達障害の疑いなど | 492 | 9 | 501 |
| その他 | 53 | 162 | 215 |
| 小計 | 4,218 | 712 | 4,930 |

【H22年度 精神科外来の新患者数】

| 疾患名 | 実人数 |
|-----------------|-----|
| 精神遅滞(MR) | 13 |
| 自閉症スペクトラム(ASD) | 65 |
| 注意欠陥多動性障害(ADHD) | 24 |
| 学習障害(LD) | 3 |
| ASD+ADHDなどの重複 | 1 |
| 精神遅滞(MR)+多動 | |
| 発達障害の疑いなど | 80 |
| その他 | 14 |
| 合計 | 200 |

現状と課題

- 療育福祉センターの発達障害の受診者数が増加
H11年度:1,811件→H22年度:6,055件(10年間で3倍に増加)



- 小中学校では、発達障害等の児童・生徒が在籍している可能性が高くなっている
公立の小中学校児童・生徒の約5.84%(H22県教育委員会調査)

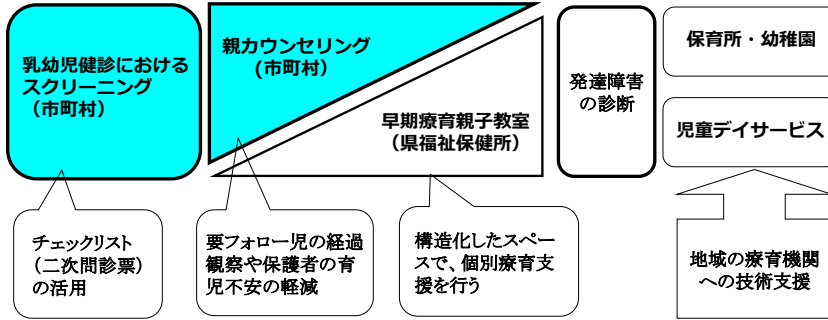
課題

1. 地域における早期発見・早期療育の支援体制整備
2. 発達障害に関する専門医師の確保
3. 診断後に専門的な療育支援を行う児童デイサービスなどの確保

1 早期発見・早期療育の支援体制づくり

- 早期発見・早期療育の支援体制づくりに取り組む市町村を拡大
 - ・乳幼児健診におけるスクリーニング、親カウンセリングなど

早期発見・早期療育の仕組みづくり(イメージ)

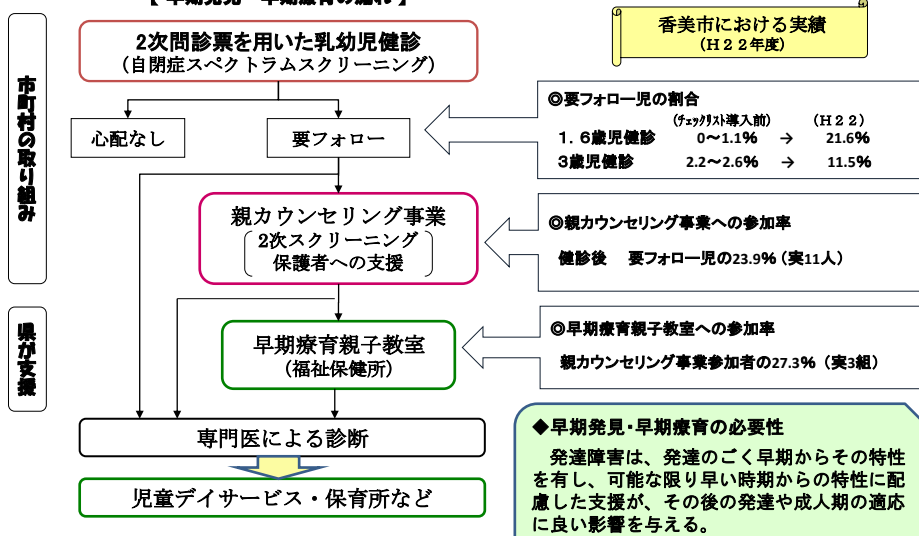


- 医師や保健師に対する早期発見の研修会を開催

早期発見・早期療育の流れ

高知県では、平成19年度から3年間、香美市をモデル地区に指定し、佐賀県のシステムを参考に、早期発見・早期療育の支援体制づくりに取り組んだ結果、成果が得られたので、その成果を県内の全地域に普及することとしている。

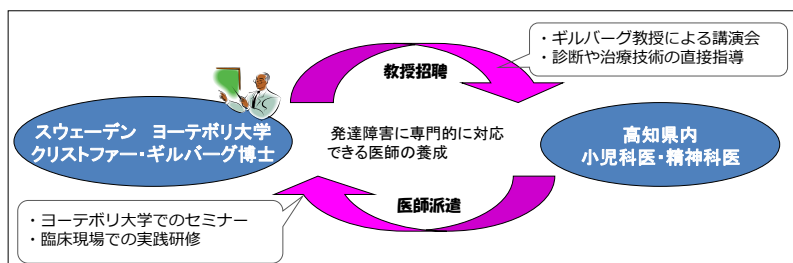
【早期発見・早期療育の流れ】



2 専門医師の養成

当面の対応

- 児童精神医学分野の世界的な権威であるクリストファー・ギルバーク博士(スウェーデン ヨーテボリ大学)による講演や県内医師への治療技術等の直接指導を実施
- ヨーテボリ大学へ医師を派遣し、臨床現場での実践研修を実施



クリストファー・ギルバーク博士の略歴



【主な職歴】

- ・1982年:スウェーデン ヨーテボリ大学 児童青年精神医学科助教授
- ・1984年:ヨテボリ大学 障害研究所教授
- ・1986年～現在:ヨテボリ大学 児童青年精神医学科教授
- ・2001年～現在:ロンドン大学 児童青年精神医学科教授
- ・2004年～現在:グラスゴー国立病院 児童精神科コンサルタント
- ・2005年～現在:ストラスカライド大学(グラスゴー・スコットランド)大学 児童精神医学科教授
- ・2006年～現在:リングフィールドてんかん児童国立センターコンサルタント
- ・2007年～現在:ロンドン児童健康研究所児童精神科客員教授
- ・2008年～現在:クイーンシルビア児童病院(ストックホルム) 児童精神神経科医長
- ・2008年～現在:サーलगレンスカ病院(ヨテボリ) 児童精神神経科医長

- 児童精神医学分野の教授として研究と教育に従事しており、児童精神医学分野では世界有数の高名な人物。(1950年生まれ)。
- 特に、発達障害の分野では、アスペルガー症候群の診断基準は非常に重要な論文で、引用頻度も群を抜いて多く、ICDやDSMなどの国際疾病分類にも影響を与えている。
- 国際的に評価の高い自閉症スペクトラムと発達障害の診断のためのツールの開発も手掛けている。治療の分野でも長年にわたる臨床経験を有し、その分野での著作も多い。

※ICD

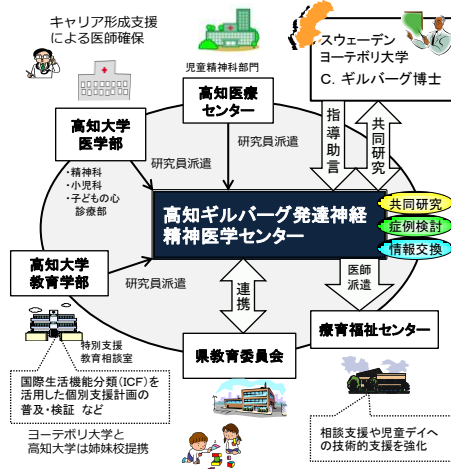
「疾病及び関連保健問題の国際統計分類」の略。世界保健機構(WHO)による疾病分類。

※DSM

「精神障害の診断と統計の手引」の略。アメリカ精神医学会の定めた精神障害の診断指針で、アメリカだけでなく世界的に広く用いられている。

高知ギルバーク発達神経精神医学センター構想 (平成24年度の設置を目標)

■ ギルバーク博士の指導と協力のもとに、神経発達障害の臨床研究及び臨床教育を行うため、高知ギルバーク発達神経精神医学センターを設置する



活動概要

ギルバーク博士の研究対象と同様に、児童精神医学全般を対象として、高知医療センター、高知大学、県教育委員会、療育福祉センター等が協働して、
①共同研究 ②症例検討 ③情報交換を行うなど、『臨床と研究』のマッチングを図る。

活動内容

研究プロジェクト

疫学的方法論に基づいた神経発達障害の臨床的研究を実施。

教育プロジェクト

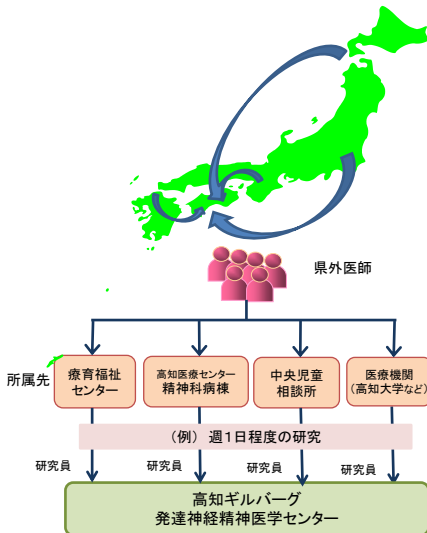
神経発達障害の理解のためのセミナー、「ESSENCE」に該当する状態像の者について、早期発見と早期介入のためのセミナー等の開催を通じて、専門性の向上を図る。

(注)「ESSENCE」とは、発達障害、知的障害、チック症、てんかん症候群その他の神経発達障害を包括する、神経精神医学的又は神経発達の臨床所見としての早期徴候症候群であり、ギルバーク博士により提唱された概念をいう。

政策企画プロジェクト

臨床研究の成果を、高知県の障害者施策に活かす。

児童精神医学を志す全国の若手医師の受入先に！



世界的な権威と共同研究を行うなど、若手医師にとって魅力のある国内オンリーワンの取組に！

児童精神医学全般を対象とし、県内の児童・思春期の治療に携わる医療機関等と協働して臨床と研究を行う

発達障害や児童問題に幅広く対応できる専門的な医師を養成する

発達障害のほか、虐待や非行に対する医学的診断や心理的なケアが行える体制に（児童相談所や市町村とも連携）



3 地域の療育機関への支援

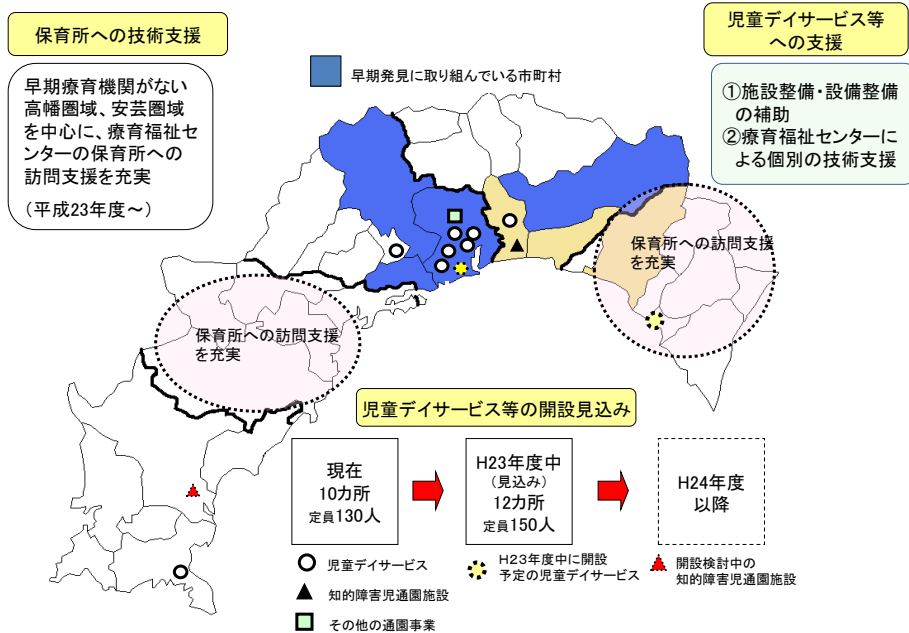
■ 発達障害の療育支援に取り組む保育所への定期的な支援

- ・早期療育機関がない高幡圏域、安芸圏域を中心に、療育福祉センターによる保育所への訪問支援を充実

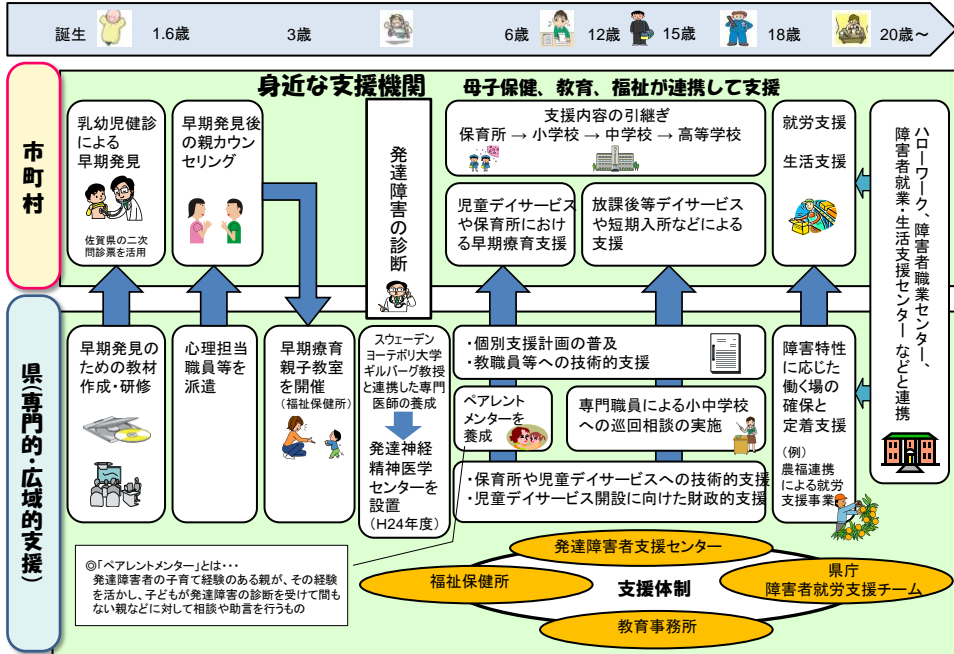
■ 児童デイサービス事業所等への支援

- ・施設整備・設備整備の補助
- ・療育福祉センターによる個別の技術支援

地域の療育機関への支援(イメージ図)



今後の取り組みの方向性 ~ライフステージに応じた支援体制~



(2)療育福祉センター
発達支援部について



発達支援部の機能

平成18年 発達障害者支援センター及び
児童デイサービス 開始

• 発達支援担当

【発達障害者支援法に基づく発達障害者支援センター】

(* 発達障害者支援センター長……精神科医師)

スタッフ……心理判定員(6)[うち非常勤1]

ソーシャルワーカー(2)

教員(1)

• 自閉症児通園担当

【障害者自立支援法に基づく児童デイサービス】

スタッフ……保育士(7)

発達支援部の業務内容

○発達支援担当

- ・発達障害児・者の相談支援
- ・発達障害児の療育支援
- ・発達障害者の就労支援
- ・普及・啓発研修

○自閉症児通園担当

- ・児童デイサービス事業
- ・地域支援 等

発達支援部（発達支援担当）

- 県内に住む**自閉症などの発達障害**があるために生活上の支援を必要とする方とそ
のご家族を総合的に支援する。また発達
障害に関わる教育機関など、関係機関及
び団体に発達障害についての正しい理解
や効果的な支援方法を広める。

* 相談支援

- 発達障害のある本人や家族、またこうした方々を支援する関係機関・施設からのさまざまな相談に**心理判定員、ソーシャルワーカー、教員**が応じます。

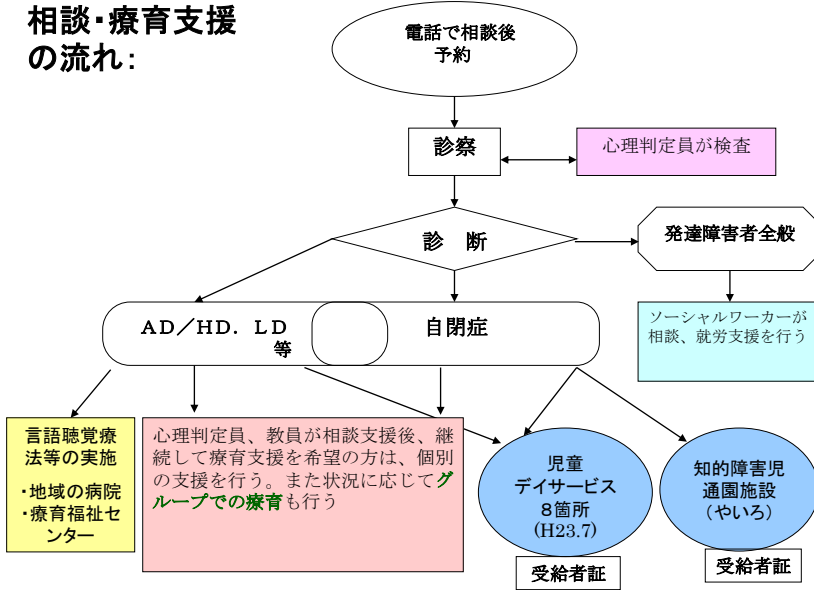
* 療育支援

- 心理判定員が、専門的な検査を使って評価を行い、その結果に基づき個別の支援計画を立て、療育を行います。
- 自閉症の幼児については、**児童デイサービス・知的障害児通園施設**を紹介します。

* 就労支援

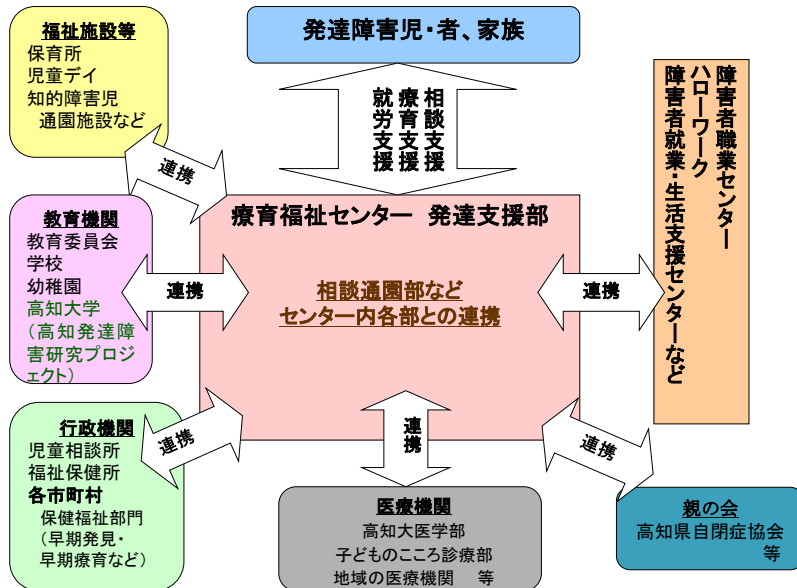
- ソーシャルワーカーが、本人の状況に応じ、社会参加の意向やソーシャルスキルを確認した上で、関係機関と連携して就労支援を行います。

相談・療育支援の流れ:



関係機関との連携

発達障害児・者に関連した専門・行政機関や地域などと情報を交換し、連携して地域生活を支援する。

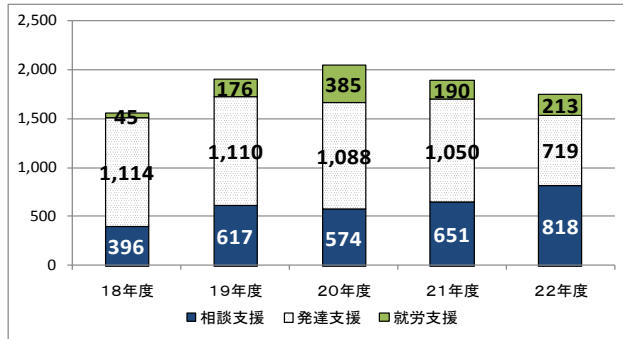


平成22年度各支援の実績

【平成22年度各支援の月別件数】

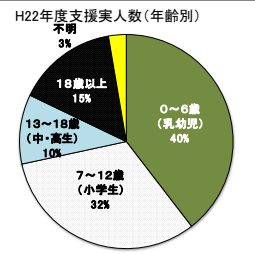
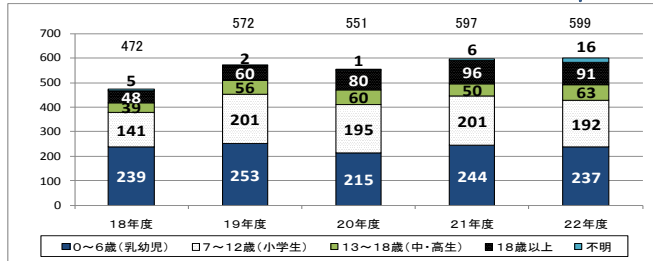
| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 計 |
|-------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|
| 相談計 | 42 | 59 | 117 | 69 | 65 | 66 | 67 | 61 | 57 | 54 | 87 | 74 | 818 |
| 相談 | 42 | 58 | 81 | 54 | 65 | 59 | 57 | 45 | 57 | 54 | 73 | 74 | 719 |
| 巡回相談 | 0 | 1 | 36 | 15 | 0 | 7 | 10 | 16 | 0 | 0 | 14 | 0 | 99 |
| 発達支援計 | 55 | 80 | 79 | 38 | 44 | 59 | 89 | 60 | 62 | 54 | 48 | 51 | 719 |
| 発達支援 | 27 | 56 | 45 | 20 | 17 | 36 | 70 | 41 | 42 | 32 | 29 | 38 | 453 |
| 医療行為 | 28 | 24 | 34 | 18 | 27 | 23 | 19 | 19 | 20 | 22 | 19 | 13 | 266 |
| 就労支援 | 13 | 12 | 22 | 17 | 31 | 12 | 19 | 12 | 13 | 24 | 23 | 15 | 213 |
| 支援計 | 110 | 151 | 218 | 124 | 140 | 137 | 175 | 133 | 132 | 132 | 158 | 140 | 1,750 |

【各支援件数の年度別推移】

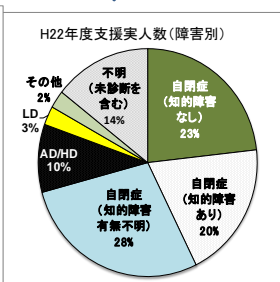
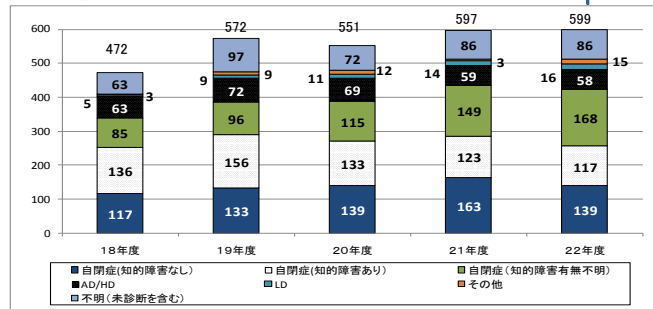


実人数の年度別の推移

【年齢別】



【障害別】



【平成22年度集団支援実績】

| | 対象者 | 内容 | 回数等 | H22年度 | | |
|---------|--------------------------|---|---|----------------|--------|----|
| | | | | 実施回数 | 延べ参加人数 | |
| 利用者支援 | 高機能自閉症年長幼児 SST「げんきっこたいむ」 | 心理判定員が療育支援を行っている高機能自閉症年長の幼児 | 4～5名の小集団でソーシャルスキルの支援を行う | ①クール | 5 | 23 |
| | | | | ②クール | 3 | 6 |
| | | | | 計 | 8 | 29 |
| | 自己認知支援「ガリレオ同盟」 | 診断告知後の小学校高学年、中学生 | 障害の理解につながるセッションを小集団で行う | | 9 | 34 |
| | 成人 SST (障害者職業センターと共催) | 自閉症スペクトラムで就労を希望している方 | 就労に必要なソーシャルスキルと生活に必要なライフスキルを習得する | 10回×2クール | 20 | 60 |
| 保護者支援 | すっぴんとーく会 (医師との座談会) | 療育センターを受診されているASD児の保護者 | 医師への質問等日ごろの悩みを話し合う | | 2 | 23 |
| | | | | | | |
| | ペアレントトレーニング | 療育センターを受診されている高機能自閉症、ADHD、LDの年長～小学4年までの児童の保護者 | 子どもの行動に焦点を当てその特徴を理解することによって、より良い親子関係を構築する | 前期 | 9 | 48 |
| | | | | 後期 (9回×2セッション) | 18 | 49 |
| フォローアップ | | | | 1 | 6 | |
| 計 | 28 | 103 | | | | |
| | プチサポ (診断後の親子相談室) | 診断後の児童、保護者 | 診断直後の保護者フォローを目的に行う | | 8 | 17 |

【平成22年度保育所・学校等の訪問・巡回相談実績】

| | 幼・保育所 | 小学校 | 中学校 | 高校 | 特別支援学校 | 相談支援事業所 | 就労支援機関 | その他 | 合計 |
|--------|--------|---------|---------|----|--------|---------|--------|-----|----------|
| 延べ実施回数 | 22 (1) | 65 (23) | 23 (11) | 3 | 3 | 5 | 57 | 9 | 187 (35) |
| 訪問先の実数 | 17 (1) | 51 (21) | 19 (11) | 2 | 1 | 4 | 10 | 5 | 109 (33) |

()は巡回相談(特別支援教育課)



【療育福祉センター主催の研修における職種別参加者の状況】

| | 施設 | 市町村 | 県 | 保育 | 教職員等 | | | | | その他 (不明を含む) | 保護者・当事者 | 総計 |
|--------|-----|-----|-----|-----|------------------|-----|-----|----|-----------------|----------------|---------|-------|
| | | | | | 幼稚園 保育に 含む | 小学校 | 中学校 | 高校 | その他 学校 教員 | | | |
| 平成18年度 | 119 | 81 | 68 | 317 | 252 | 109 | 26 | 20 | 97 | 99 | 197 | 1,133 |
| 平成19年度 | 146 | 123 | 100 | 375 | 317 | 45 | 117 | 21 | 18 | 116 | 175 | 1,501 |
| 平成20年度 | 204 | 100 | 84 | 355 | 502 | 59 | 142 | 54 | 34 | 213 | 177 | 1,677 |
| 平成21年度 | 68 | 42 | 42 | 254 | 286 | 59 | 108 | 14 | 12 | 93 | 183 | 1,083 |
| 平成22年度 | 148 | 83 | 55 | 156 | 222 | 45 | 70 | 11 | 39 | 57 | 171 | 957 |

| 平成22年度 療育福祉センター主催の研修 | 平成22年度実績 | |
|----------------------|----------|------|
| | 実施回数 | 参加者数 |
| ステップアップセミナーの実施 | | |
| 視覚支援と構造化に関するセミナー | 4 | 135 |
| 2Daysトレーニングセミナー | 2 | 11 |
| フォローアップセミナー | 1 | 12 |
| 発達障害啓発セミナーⅠ | 1 | 256 |
| 発達障害啓発セミナーⅡ | 1 | 235 |
| 実践報告会&とーく会 | 1 | 145 |
| 発達障害者就労支援セミナー | 2 | 148 |
| ペアレントメンター養成講座 | 1 | 15 |

＜主な研修の内容＞
 ○発達障害啓発セミナー
 自閉症スペクトラムについての理解や、成人期の就労及び生活支援からみた学齢期に必要な支援についての講演
 ○実践報告会&とーく会
 ・県外講師による講演
 ・学校や医療機関、家庭などそれぞれの立場での取り組みについて報告
 ・パネルディスカッション

【他機関からの依頼による研修会参加者の状況(講師の派遣)】

| | 施設 | 市町村 | 県 | 保育 | 教職員等 | | | | | その他 (不明を含む) | 保護者・当事者 | 総計 |
|--------|-----|-----|-----|-----|-------|-----|-----|-----|-----------------|----------------|---------|-------|
| | | | | | 幼稚園 | 小学校 | 中学校 | 高校 | その他 学校 教員 | | | |
| 平成18年度 | 211 | 120 | 181 | 32 | 572 | 43 | 189 | 60 | 125 | 155 | 185 | 1,301 |
| 平成19年度 | 46 | 36 | 28 | 255 | 960 | 153 | 206 | 75 | 13 | 513 | 195 | 1,615 |
| 平成20年度 | 161 | 188 | 166 | 195 | 1,146 | 154 | 582 | 273 | 54 | 83 | 511 | 2,615 |
| 平成21年度 | 50 | 69 | 44 | 72 | 597 | 30 | 191 | 93 | 191 | 92 | 344 | 1,325 |
| 平成22年度 | 213 | 629 | 105 | 351 | 319 | 0 | 110 | 44 | 108 | 57 | 529 | 2,365 |

自閉症デイサービス「える」

- ・ 定員：20名／1日
- ・ 児童デイサービスの事業で契約が必要（利用料あり）
- ・ 対象：就学前の自閉症スペクトラムの児童と保護者
- ・ 最大週1回の通園
- ・ **TEACCHプログラムのアイデアを活かした個別療育**

TEACCHプログラムとは・・・
 TEACCHとは「自閉症及び関連するコミュニケーション障害の子どものための治療と教育」(Treatment and Education of Autistic and related Communication handicapped Children)
 アメリカ・ノースカロライナ州で開発された自閉症の特性に合わせた一貫性のある包括的な援助システムのことです。

○週間スケジュール

| | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 |
|----------------------|-----------|-----------|-----------|-----------|---------------------|
| 午前Ⅰ (9:00～10:30) | 定期療育 ① | 定期療育 ⑤ | 定期療育 ⑨ | 定期療育 ⑬ | ケース検討会 |
| 午前Ⅱ (10:30～12:00) | 定期療育 ② | 定期療育 ⑥ | 定期療育 ⑩ | 定期療育 ⑭ | 保護者教室 (H22年度：9回) |
| 午後Ⅰ (13:00～14:30) | 定期療育 ③ | 定期療育 ⑦ | 定期療育 ⑪ | 定期療育 ⑮ | スタッフ会議 |
| 午後Ⅱ (15:00～16:30) | 定期療育 ④ | 定期療育 ⑧ | 定期療育 ⑫ | 定期療育 ⑯ | 職員研修 |

【グループでの支援】

| | 対象者 | 内容 |
|-----------------------|-------------------|--------------------|
| 早期グループセッション 「たんぼぼ」 | 診断直後の幼児 | 親子ふれあい遊びと保護者支援 |
| 早期グループセッション 「べんぎん」 | 個別支援のシステムが入るまでの幼児 | アセスメント及び再構造化と保護者支援 |
| ソーシャルスキルグループ | 高機能自閉症幼児 | 小集団でのソーシャルスキル学習 |

【デイサービスの通園状況の推移】

